

令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立西小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	52.9	55.3	52.3	54.5	53
	本年度結果 偏差値平均	49.1	55	54.7	52.1	51.8	52.6
算数	前年度結果 偏差値平均	/	49.6	53.6	54.3	54.4	52.4
	本年度結果 偏差値平均	47.9	51.8	53.3	53.9	52.1	51.9
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	50	49.3	49.8
	本年度結果 偏差値平均	/	/	51.3	47.9	48	48.9
全体	前年度結果 偏差値平均	/	51.2	54.5	52.2	52.7	52
	本年度結果 偏差値平均	48.5	53.4	53.1	51.3	50.6	51.5

②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第6学年対象)

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	72 (107)	65 (102)
本年度結果 (対県比)	70 (101)	59 (92)

2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語科では、説明文の要旨をまとめる(41%)、目的に応じて書く(38%)などに課題があった。 ●算数科では、表とグラフ(43%)、体積(57%)などに課題があった。 ●理科では、かげの様子(58%)、電磁石(12%)などに課題があった。 	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語科(県対比101)、算数科(県対比92)ともに、対県比+3という目標に届かなかった。 ●国語科では、漢字(56.3%)、文章の構造と把握(67.2%)に課題があった。 ●算数科では、式や言葉を用いた記述(50.0%)、図の意味や性質の理解(15.6%)、課題把握(40.6%)、割合(29.7%)に課題があった。
---	---

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全教諭が「問いの設定」を意識した授業を実施できるようにする。 ○全教諭が、年間1回以上の研究授業を行い、事後研修を設け、授業力向上を図る。 ○学力調査問題・全国学力・学習状況調査を基に、重点も課題を把握し、全学年で系統的に取り組む。 	<p>1.NRTの調査分析による実態把握と改善計画の立案 2.学校経営会議及び研究科において改善計画の共有 3.全体研修による目指す授業の共有、学力向上における年間スケジュールの共有を全職員で実施 4.全職員年間1回以上研究授業をし、単元構想シートをもとに、教員間、管理職、指導主事による授業参観実施と全職員による事後研修の実施をする。また、研究授業前には、シュミレーションを行い、再検討するとともに、参観者も授業をみる視点をもち、授業を参観する。 5.全教員による全国学力・学習状況調査の調査分析による実態把握し、学年の系統性を確認して、各学年の授業改善に生かす。課題のある問題の類似問題を作成する。また、全校共通の家庭学習プランを実施し、プリント国語科(主に読む)、算数科(当日に習ったもの)、理科(既習内容)のいずれかに毎日取り読む、ミラシート等を活用して、個別最適型の課題を実施する。 6.学力調査問題における正答率の低い問題を重点的に解説するとともに、類似問題やアシストシートをドリルタイムで実施する。また、計算タイムでは、基本の計算問題を中心に実施する。 7.学力調査問題を授業時間に設定し、本書同様の実施、解説 8.全国学力調査に向けて、本書同様の実施したり、1クラス3人以上の教員が指導、まなびポケットを活用して、再度過去問に取り組み、個人の定着状況分析し、課題のある問題に取り組ませる。 9.算数科において、図・式・言葉を選択付けで考えられるように全学年で指導を行う。 10.放課後補充の時間を設定し、学力の定着に課題がある児童の個別指導を行う。</p>	<p>①6月 ②7月 ③5月および6月 ④年間1回以上(割り当てられた日)</p> <p>⑤年間</p> <p>⑥年間</p> <p>⑦1月~4月 ⑧2月~4月 ⑨年間 ⑩年間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Q-U2回目の学習意欲の数値(全学級で全国得点+0.5以上) ・各学期まとめテスト読むこと平均値(全学級80%以上) ・「考えの形成」を見取る活用シート(1・2学期)及び作成した類似問題(3学期)の正答率(全学級80%以上)
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学級において、学習ルールを決め、徹底できるようにする。 ○帰りの会で友だちの良いところ見つけをして、自己肯定感を高める。 ○教科担任制を取り入れ、複数の教師の視点で児童のよさや変化を見つけるようにする。 	<p>①Q-Uの分析による実態把握と改善計画の立案 ②クラスで目標を決め、達成できた時には、シートなどに評価をためていく。視覚化することで、クラスで統一して頑張ろうとする意欲をもたせる。 ③帰りの会で、友だち(日直)の良いところを称賛するなど、頑張りを認め合える雰囲気をつくらせる。 ④児童の様子(具体的にどのようなかわりを求めているのか)を複数の教員で共有し、教員からしっかりとかがわっていく。 ⑤Q-Uの結果を基に分析し、面談を行い、悩みを聞きながら解決したり支援したりする。</p>	<p>①6月・9月・1月</p> <p>②年間</p> <p>③年間</p> <p>④年間</p> <p>⑤年間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Q-U2回目の一次支援の数値向上(全学級で1回目以上) ・学級満足度全クラス65%以上